

都市再生整備計画事業 事後評価シート
遠野まちなか再生地区(2期)

令和5年2月

岩手県遠野市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岩手県		市町村名	遠野市		地区名	遠野まちなか再生地区(2期)			面積	101ha				
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	1,039百万円	国費率	0.303						
1)事業の実施状況	事業名														
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> ・道路:市道新穀町通り線 ・地域生活基盤施設(情報板):遠野駅前通りポケットパークサイン整備 ・地域生活基盤施設(地域防災施設):市民センター改修事業 ・高質空間形成移設:県道遠野停車場線他電線無電柱化 												
		提案事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域創造支援事業(給水管更新事業):市道新穀町通り線 ・地域創造支援事業(遠野市民センター改修事業):遠野市民センター ・地域創造支援事業(まちなか回遊マップ作成事業):まちなか各施設 ・事業活用調査(事業効果分析調査):まちなか各施設 												
	当初計画から削除した事業	事業名													
		基幹事業	・高質空間形成移設:県道遠野停車場線他電線無電柱化				・平成28年発災の災害復旧事業を最優先するため、本事業を先送りしたことによる				影響あり 観光施設等の入込み数とまちなか歩行者数に寄与する				
提案事業		・地域創造支援事業(給水管更新事業):市道新穀町通り線				・市単独費で実施したことによる				影響なし					
新たに追加した事業	基幹事業	なし													
	提案事業	なし													
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—									
	変更	変更なし													
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値	評価年度	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	指標1	中心市街地の観光施設等の入込み数	人/年	98,454人/年	基準年度	H24	100,000人/年	目標年度	H30	モニタリング	47,450人/年	H30	あり	市街地の賑わい創出による観光施設入場者数の増加を目標設定としていた。(H24)98,454→(H30)47,450→(R3)26,100人/年の実績であった。中心市街地の歩道の支障物を解消し、さらに融雪装置を設置したことで、歩行者数・観光施設入込数の増加に効果があったと考えられる。また市役所新庁舎が平成29年に遠野駅近くの商業施設内に建設されたことで、相乗効果によるまちなかの活性化に効果があったと考えられる。しかしながら、令和2年からの新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限により、市内への観光客入込数は減少した。令和4年度に行動制限がなくなったことで、今後の観光客は増加するものと予想される。	令和7年度末
										評価値	26,100人/年	R3	なし		
	指標2	まちなか歩行者数	人/日	5,276人/日	H24	6,000人/日	H30	モニタリング	4,060人/日	H30	あり	安全確保、魅力アップによるまちなか歩行者数を目標設定としていた。(H24)5,276→(H30)4,060→(R3)3,537人/日の実績であった。中心市街地の歩道の支障物を解消し、さらに融雪装置を設置したことで、歩行者数・観光施設入込数の増加に効果があったと考えられる。また市役所新庁舎が平成29年に遠野駅近くの商業施設内に建設されたことで、相乗効果によるまちなかの活性化に効果があったと考えられる。しかしながら、令和2年からの新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限により、まちなか歩行者数は減少した。令和4年度に行動制限がなくなったことで、今後の観光客は増加するものと予想される。	令和7年度末		
								評価値	3,537人/日	R3	なし				
	指標3	防災訓練・講習会の開催回数	回/年	1回/年	H24	3回/年	H30	モニタリング	1回/年	H30	あり	遠野市民センターにおいて実施する防災訓練・講習会の年間実施回数を目標設定としていた。(H24)1→(H30)1→(R3)1回/年の実績であった。本施設は建設から約50年経過していることから耐震補強が急務であり、また東日本大震災以降は市民の防災意識が向上していることから、耐震化工事は効果があったと考えられる。しかしながら市民センターでの防災訓練は従来から年1回であるため、数値は向上しなかった。	令和7年度末		
								評価値	1回/年	R3	なし				

	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標) による効果発現状況	その他の 数値指標1											
	その他の 数値指標2											
4) 定性的な効果 発現状況	JR遠野駅前広場の整備により、SL銀河お出迎えやマルシェ出店イベント等が開催されている。											
5) 実施過程の評価			実施内容			実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた				-		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加 プロセス	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた				-		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり 体制の構築		歩行者交通量調査の実施			都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	市民による主体的な調査・検証が継続して行われるよう支援していく。	
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												

様式2-2 地区の概要

遠野まちなか再生地区(2期)(岩手県遠野市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
官民一体による中心市街地の賑わい創出とみんなが豊かに暮らすことのできるやさしいまちづくり 目標1: 中心市街地の賑わい創出による地域の活性化 目標2: 高齢者や子育て世代でも快適に暮らすことのできる豊かな暮らしの創出 目標3: 地域防災機能を備えた災害に強い安全安心なまちづくり	中心市街地の観光施設等の入込み数	単位: 人/年 98,454人/年	H24 100,000人/年	H30 47,450人/年 R3 26,100人/年	
	まちなか歩行者数	単位: 人/日 5,276人/日	H24 6,000人/日	H30 4,060人/日 R3 3,537人/日	
	防災訓練・講習会の開催回数	単位: 回/年 1回/年	H24 3回/年	H30 1回/年 R3 1回/年	



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 達成されたこと(課題の改善状況) 歩道改良及び融雪装置設置や、遠野市民センターの耐震化により、人にやさしいまちづくりを実施した。 市役所新庁舎が平成29年に遠野駅近くに建設されたことで、市街地の交流人口増加に効果があった。 令和2年からの新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限により、市内への観光客入込数、まちなか歩行者数は減少した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 今後のまちづくり方策 令和4年度に行動制限がなくなったことから、今後の観光客入込数、まちなか歩行者数は増加するものと予想される。

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道新穀町通り線	55	A=511㎡	100	A=511㎡	事業費の精査	影響なし	●	
地域生活基盤 施設	遠野駅前通りポケットパーク	17	10箇所	17	10箇所		影響なし		●
	遠野市民センター	686	耐震補強一式	450	耐震補強一式	事業費の精査	影響なし	●	
高質空間形成 施設	県道遠野停車場線他	494	L=800m	-	-	事業の削除 災害復旧を優先したことによる事 業先送り	影響あり 観光施設等の入込み数とまちなか歩行者数に寄与する	-	-
既存建造物活 用事業 高次問 施設									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	給水管更新事業	56	L=592m	-	-	事業の削除 市単独費で実施したことによる	影響なし	-	-
	遠野市民センター改修事業	386	一式	459	一式	事業費の精査	影響なし	●	
	まちなか回遊マップ作成事業	10	一式	10	一式		影響なし	●	
事業活用調査	事業効果分析調査	3	一式	3	一式		影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)				目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度		モニタリング		H30	R3	モニタリング		あり	なし
指標1	中心市街地の観光施設等の入込み数	人/年	-	-	98,454人/年	H24	100,000人/年	H30	モニタリング		H30	R3	モニタリング			
									事後評価	確定 ●	47,450人/年	26,100人/年	事後評価	△		●
指標2	まちなか歩行者数	人/日	-	-	5,276人/日	H24	6,000人/日	H30	モニタリング		H30	R3	モニタリング			
									事後評価	確定 ●	4,060人/日	3,537人/日	事後評価	△		●
指標3	防災訓練・講習会の開催回数	回/年	-	-	1回/年	H24	3回/年	H30	モニタリング		H30	R3	モニタリング			
									事後評価	確定 ●	1回/年	1回/年	事後評価	×		●

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	市街地の賑わい創出による観光施設入場者数の増加を目標設定としていた。 (H24)98,454→(H30)47,450→(R3)26,100人/年の実績であった。 中心市街地の歩道の支障物を解消し、さらに融雪装置を設置したことで、歩行者数・観光施設入込数の増加に効果があったと考えられる。 また市役所新庁舎が平成29年に遠野駅近くの商業施設内に建設されたことで、相乗効果によるまちなかの活性化に効果があったと考えられる。 しかしながら、令和2年からの新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限により、市内への観光客入込数は減少した。 令和4年度に行動制限がなくなったことで、今後の観光客は増加するものと予想される。	
指標2	安全確保、魅力アップによるまちなか歩行者数を目標設定としていた。 (H24)5,276→(H30)4,060→(R3)3,537人/日の実績であった。 中心市街地の歩道の支障物を解消し、さらに融雪装置を設置したことで、歩行者数・観光施設入込数の増加に効果があったと考えられる。 また市役所新庁舎が平成29年に遠野駅近くの商業施設内に建設されたことで、相乗効果によるまちなかの活性化に効果があったと考えられる。 しかしながら、令和2年からの新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限により、まちなか歩行者数は減少した。 令和4年度に行動制限がなくなったことで、今後の観光客は増加するものと予想される。	
指標3	遠野市民センターにおいて実施する防災訓練・講習会の年間実施回数を目標設定としていた。 (H24)1→(H30)1→(R3)1回/年の実績であった。 本施設は建設から約50年経過していることから耐震補強が急務であり、また東日本大震災以降は市民の防災意識が向上していることから、耐震化工事は効果があったと考えられる。 しかしながら市民センターでの防災訓練は従来から年1回であるため、数値は向上しなかった。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度		モニタリング	事後評価	見込み		
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

JR遠野駅前広場の整備により、SL銀河お出迎えやマルシェ出店イベント等が開催されている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 町民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
歩行者交通量調査の実施	予定どおり実施した	● 9月の平日1日・休日1日の歩行者通行量を調査し、市街地の状況を把握した。	遠野商工会	市民による主体的な調査・検証が継続して行われるよう支援していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会	環境整備部 まちづくり推進課、建設課 産業部 観光交流課、商工労働課 市民センター 市民協働課	令和5年1月27日	環境整備部まちづくり推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別							
指標名							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業							
提案事業							
関連事業							

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用			
-------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3		
指標名		中心市街地の観光施設等の入込み数			まちなか歩行者数			防災訓練・講習会の開催回数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道新穀町通り線)	△	市街地の賑わい創出による観光施設入場者数の増加を目標設定としていた。(H24)98,454→(H30)47,450→(R3)26,100人/年の実績であった。中心市街地の歩道の支障物を解消し、さらに融雪装置を設置したことで、歩行者数・観光施設入込数の増加に効果があったと考えられる。	III	△	安全確保、魅力アップによるまちなか歩行者数を目標設定としていた。(H24)5,276→(H30)4,060→(R3)3,537人/日の実績であった。中心市街地の歩道の支障物を解消し、さらに融雪装置を設置したことで、歩行者数・観光施設入込数の増加に効果があったと考えられる。	III	-	遠野市民センターにおいて実施する防災訓練・講習会の年間実施回数を目標設定としていた。(H24)1→(H30)1→(R3)1回/年の実績であった。本施設は建設から約50年経過していることから耐震補強が急務であり、また東日本大震災以降は市民の防災意識が向上していることから、耐震化工事は効果があつたと考えられる。	IV
	地域生活基盤施設(地域防災施設 遠野市民センター)	-			-			△		
提案事業	地域創造支援事業(遠野市民センター改修事業)	-	また市役所新庁舎が平成29年に遠野駅近くの商業施設内に建設されたことで、相乗効果によるまちなかの活性化に効果があつたと考えられる。しかしながら、令和2年からの新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限により、市内への観光客入込数は減少した。令和4年度に行動制限がなくなったことで、今後の観光客は増加するものと予想される。	III	-	また市役所新庁舎が平成29年に遠野駅近くの商業施設内に建設されたことで、相乗効果によるまちなかの活性化に効果があつたと考えられる。しかしながら、令和2年からの新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限により、まちなか歩行者数は減少した。令和4年度に行動制限がなくなったことで、今後の観光客は増加するものと予想される。	III	△	遠野市民センターでの防災訓練は従来から年1回であるため、数値は向上しなかった。	IV
	地域創造支援事業(まちなか回遊マップ作成事業)	△			△					
	事業活用調査(事業効果分析調査)	-			-					
関連事業										

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	平成29年に遠野駅近くに建設した市役所新庁舎や、令和3年に市街地にオープンした「こども本の森 遠野」等を活用し、交流人口増加に努める。特に庁舎は商業施設内にあることから相乗効果が期待される。さらに、地元食材を使った飲食店が近年市街地に開店していることから、これらの民間事業者と協働して中心市街地への誘客を図る。	遠野ファンやリピーターを呼び込む魅力的なイベントの開催、民間によるマルシェ出店イベント等の支援、体験型企画展示等の事業を実施する。	HPやSNSを通じて防災情報を広く周知し、防災意識の向上を図る。各種イベントに合わせて救命講習会を実施する等、回数を増やす。
------------------	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会	環境整備部 まちづくり推進課、建設課 産業部 観光交流課、商工労働課 市民センター 市民協働課	令和5年1月27日	環境整備部まちづくり推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<ul style="list-style-type: none"> SLの定期運行が予定され観光客の増加が期待できることから、観光施設や商業施設の集客力向上にむけた区域内全体の魅力の醸成が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> SL運行に合わせてお出迎えイベントを開催した。駅前広場及びとおの物語の館での郷土芸能披露のほか、停車時間の延長に伴い商業施設と連携したおもてなしをすることで、区域内が一体となって集客ムードを盛り上げた。 令和5年6月をもってSL銀河の運行が終了となるが、引き続き、企画・臨時列車に対するお出迎えイベント等の開催を図って、集客ムードを盛り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> イベント開催日以外の観光客の増加。 	なし
<ul style="list-style-type: none"> 急激に進んでいる少子高齢化に対応した中心市街地機能の再構築が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道改良及び融雪装置設置や、遠野市民センターの耐震化により、人にやさしいまちづくりを実施した。 市役所新庁舎が遠野駅近くの商業施設内に建設されたことで、相乗効果によるまちなかの活性化に効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、中心市街地の再構築が課題。 空き店舗の再利用。 	なし
<ul style="list-style-type: none"> 遠野市民センターは震災時において大型収容施設としての機能を持ち合わせた施設であり、東日本大震災の際にも避難所受入や炊き出しの拠点となった。しかし、東日本大震災の教訓から防災機能の更なる機能の補完が課題となっているほか、昭和46年の完成から約50年が経過しているため耐震補強が急務となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 遠野市民センターの耐震化工事を実施し、施設利用者の安全性が向上した。 本施設は「遠野市地域防災計画」における指定避難所に登録されているため、災害時における安心安全な避難所確保に寄与した。 	なし	なし

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・観光資源を活用したまちづくりの拡大	・JRの観光企画との連携 ・観光資源の効果的な情報発信 ・リピーターの増加	・JR釜石線のイベントに合わせた商品開発 ・観光ボランティアガイドの育成 ・HPやSNS、案内板、観光案内の充実
	・健全な市街地形成	・商店街の活性化 ・市役所新庁舎が商業施設内にあることの相乗効果	・商店街等活動助成制度等

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・各種イベントの充実と魅力ある施設利用	・遠野ファンやリピーターを呼び込む魅力的なイベントの開催 ・年間を通じた体験型等の企画展示事業実施	・各種イベントへの支援事業 ・市ホームページ、広報、SNSでの情報発信
	・中心市街地の魅力向上	・空き店舗の利用促進と活気あふれる市街地形成 ・景観に配慮し、歴史・文化の調和がとれた美しい街並み形成 ・地元食材を使った飲食店等、民間事業者との協働	・空き店舗家賃助成制度等
	・インフラ施設の更新	・県道遠野停車場線の歩道融雪装置の漏水対策 ・県道遠野停車場線他の電線電柱地下埋設	・県道遠野停車場線の歩道融雪装置の更新 ・県道遠野停車場線他の無電柱化に期待

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		評価年度	目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み				予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	中心市街地の観光施設等の入込み数	人/年	98,454人/年	H24	100,000人/年	H30	確定 ●	47,450人/年	H30	△	あり	→	令和7年度末	遠野市立博物館、とおの物語の館、遠野城下町資料館3施設の年間入場者数の合計値	
							見込み	26,100人/年	R3						
指標2	まちなか歩行者数	人/日	5,276人/日	H24	6,000人/日	H30	確定 ●	4,060人/日	H30	△	あり	→	令和7年度末	まちなかの6地点において測定した、9月の平日1日・休日1日の歩行者通行量	
							見込み	3,537人/日	R3						
指標3	防災訓練・講習会の開催回数	回/年	1回/年	H24	3回/年	H30	確定 ●	1回/年	H30	×	あり	→	令和7年度末	遠野市民センターにおいて実施する防災訓練・講習会の年間実施回数	
							見込み	1回/年	R3						
指標4							確定				あり	→			
							見込み				なし	→			
指標5							確定				あり	→			
							見込み				なし	→			
その他の数値指標1							確定					→			
							見込み					→			
その他の数値指標2							確定					→			
							見込み					→			
その他の数値指標3							確定					→			
							見込み					→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		事業の実施状況に応じ、それに応じた指標を適切に見直す必要がある。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年からの新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動制限により、市内への観光客入込数は減少した。 目標値設定において、達成レベルをどの程度にするかが難しい。 	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		目標を定量化する指標と事業の関連性を十分検証して設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> 目標を定量化する指標と事業の関係性が整合しておらず、適切な効果計測ができなかった。 	
町民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> 市担当課が調査している施設入込数や遠野商工会が継続実施している通行量調査により、施設入込数や市街地の通行量の経年変化を的確に把握することができた。 	継続実施している調査結果を指標とすることは、事業効果を把握するうえで有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに原案を掲載	令和5年1月31日～2月13日	令和5年1月31日～2月13日	環境整備部まちづくり推進課を受付窓口とし、意見書・電子メール・FAXによる意見を受け付ける。	環境整備部まちづくり推進課
広報掲載・回覧・個別配布	なし	なし	なし		
説明会・ワークショップ	なし	なし	なし		
その他	環境整備部まちづくり推進課の窓口で閲覧	令和5年1月31日～2月13日	令和5年1月31日～2月13日		

町民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	仁田清巳（岩手県建設業協会遠野支部事務局長）	令和5年2月3日	環境整備部 まちづくり推進課	独自に設置	独自に設置
その他の委員	千田孝喜（㈱遠野施設管理サービス常務取締役） 菊池正（遠野市上下水道事業審議会委員）				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことを確認した。
	成果の評価	・現時点のR3の評価だけでなく、目標年度のH30の実績も記載のこと。 ・数値目標が未達成であることから△の判定を了とする。施設入込数、歩行者数は実際はもっと多いはず。
	実施過程の評価	・歩行者数を遠野商工会が継続して測定していることを確認した。
	効果発現要因の整理	・本庁舎が駅近くの商業施設内において相乗効果が期待されることを記載のこと。 ・地元食材を使った飲食店が近年市街地に開店していることから、民間事業者と協働していくことを記載のこと。
	事後評価原案の公表の妥当性	・適正に実施していることを確認した。
	その他	-
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・適正に進めていることを確認した。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・本庁舎が駅近くの商業施設内において相乗効果が期待されることを記載のこと。 ・地元食材を使った飲食店が近年市街地に開店していることから、民間事業者と協働していくことを記載のこと。
	フォローアップ	・令和7年度に実施することを確認した。
	その他	-
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・方策が妥当であることを確認した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・この都市再生整備計画でハード事業は整備されたが、今後はソフト事業が大事である。遠野市観光協会等と共に事業展開していく必要がある。 ・行政だけでなく民間の力が必要である。企業を巻き込みたい。誘致企業へアピールを。工業団地が整備されて大規模な雇用が見込まれることから、定住による人口増に期待したい。 	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
なし		

有識者の意見	
--------	--